

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402184		
法人名	医療法人 杏林堂		
事業所名	グループホーム明星 有明ユニット		
所在地	〒859 - 2122 長崎県南島原市布津町乙674-1		
自己評価作成日	平成21年 12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年 3月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明島整形外科医院併設で医療面、緊急時の対応も万全です。 全室温便座付トイレ、洗面台付。バリアフリー設計 誕生会は入所者様の誕生日に個別に行います。 地域のイベント参加、ドライブなど外出支援を積極的に行ってます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

円形に建築されたホームはリビングと広い廊下で芝生の中庭を囲み、広々として解放感に溢れている。散歩、日光浴も楽しめ、夏はそうめん流しも行われる。食事は調理専門の方が作られ、その分入居者さんとゆったりと関る事ができ、頻繁に福祉車両を借りてのドライブや外出支援を楽しみにされている。全居室内は温便座付きのトイレを配置し、洗面台付きでプライバシーが保たれている。ボランティアや幼稚園児の慰問の受け入れも行い、利用者の喜びに繋げている。管理者、を中心に医療と介護を融合した支援を行い、利用者に安心した生活を提供しており、職員と利用者の生き生きとした生活が窺える。
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度	
		3. たまにある			○ 3. たまに	
		4. ほとんどない			4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない			4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が				
		2. 利用者の2/3くらいが				
		3. 利用者の1/3くらいが				
		4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心も元気・身体も元気・明るく楽しく暮したい」を理念として掲げ、毎月の全体会議での意識づけや日々の業務の中でも常に理念を掘り下げて、意識した判断、行動をとれるよう努めている。	会話を多く取り入れ、利用者の心のケアや楽しい生活に向け、職員間で共有を図り日々実践している。また、理念に沿って、日々外出を取り入れ、母体の医療機関のリハビリや理学療法士による訪問を受け、母体の持つ機能を存分に活かして支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント(文化祭、盆踊り、お祭など)へ積極的な参加と散歩を通じて近所の方へ挨拶をしている。	管理者は近隣に居住しており、近くの畑の方と挨拶を交わしたり町内の方の訪問者も多い。祭りの神輿も立ち寄られ、敬老会は家族も交え、大正琴のボランティアを受託、最近では、近くの幼稚園の慰問があり交流をはかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に外部へ出掛け地域の方との交流を深めたり、口腔ケア研修等を行ったり、ボランティアの受け入れを行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回市の職員代表、地域の代表、入所者家族代表の方が参加され、日々の活動報告、入所者の状態等を報告している。また、参加者より地域の情報や市の取り組みなど意見を頂いている。	運営推進会議は2カ月に1回開催され、メンバーに老人会長や福祉専門の市職員の方が参加され、新型インフルエンザ状況やスプリンクラーに関する質問等、参加者の皆さんからの意見や質問が多く、運営の向上に反映できている会議である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーで市の職員の代表の方と情報交換を行っている。	入居者で公的扶助を利用している利用者を福祉事務所の担当者が訪ねており、交流を図っている。また、市からのボランティアの受け入れの要請により、お願いする等、相互的な関係が確立している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議でケアを振り返り、身体拘束が行われていないか再確認している。また、研修等への積極的な参加で理解を深めている。また、基本的に夜間以外は鍵をかけず、利用者の行動の把握と見守りにより、事故防止に取り組んでいる。	玄関のカギはかけていない。夜間のセンサーは利用者の安全確保と捉え、家族へ説明の記録もある。身体拘束のマニュアルを作成し、勉強会を行い職員の意識を高めている。また、過去には徘徊者訓練も行い、安心した拘束の無いケアの実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、全体会議等で伝達研修を行い資料等閲覧出来る様になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人が必要な方がいたが管理者一人に対応したため現在事例が無く数名の職員は独学で制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り、入所前に事業所の見学をして頂き契約内容、運営方針など十分な説明を行い、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いをくみ取り、利用者本意に考え実践している。不満等は全体会議で改善に向けて検討している。また、玄関に意見箱を設置している。	事業所だよりを毎月発行し、家族に喜ばれている。パンフレットにメールアドレスを載せ受付案内や、アンケートも同封し意見は全体会議に反映させている。餅つきや敬老会には家族の参加をご案内し、会う機会を増やす事で、意見の収集に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を通じ、職員の意見や提案を考慮し取組んでいる。	職員の提案で敬老会をホーム内で行い、家族の方と一緒に祝い喜ばれた。毎朝、管理者により施設長に報告が行われ連絡体制がよく行われている。最近では、職員の要望でテレビ、ソファの購入に至った事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	顔見知りの関係などを考慮し法人内の異動は極力行っておらず、離職の際にも引継ぎ期間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加費など全て事業所が負担している。また、研修会に参加できない方に対し全体会議時に伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入し研修会を通じ他の事業所の方と交流を図っている。また、職員の友人・知人を通じ交流を図っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、本人の要望を多く聴く機会を持つようにして受け止める努力をしている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労した話等を聴き、課題を把握し、受け止める努力をしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、サービスの緊急性、必要性を見極め関係機関や相談者と信頼関係を築きながら考えるようにしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴を把握し、経験や体験など利用者から学びながら共に生活することで、支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時の声掛けや行事への参加の呼びかけを行い、支えあう関係を気づくよう努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望するなじみの場所(墓参り、身近な店)への外出など、できる限り支援している。また、年賀状を出したり電話を掛けたりし、つながりの関係が継続出来る様支援している。	家族に暑中見舞や年賀状を出したり、買い物 の支援も行っている。限られてはいるが友人も来訪されることもある。正月には自宅に帰宅し、外泊の際にはアドバイスをして送り出し、病状によっては弁当を自宅に配達することもある。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に集まり、会話し、支え合い暮せるように、利用者同士の人間関係をよく把握し、必要であれば職員が間に入りより良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	知人やケアマネ等に近況状況を聞いたりしている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族によく話を聴き、意向に沿った生活をされているか、常に気に掛けながら取り組んでいる。	利用者の基本情報を作成し、追加事項は備考欄に記述している。また、問題領域一覧表により、その人なりの理解に繋げている。職員の離職が少なく、継続した支援で利用者を理解しており、新人には伝達し、思いの理解に努め、共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを考え、小さなサインも発見し、総合的に援助出来るよう配慮する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に日常のことで思いや意見を聴き、考慮している。また、全体会議を通じ全職員の意見を聞き反映させている。	入居者や家族の思いに沿って生活や医療の両面から介護計画を作成し、家族の了解を得ている。介護計画モニタリング表でチェックを行い、3カ月、6カ月の期間を設け見直しを行っているが、介護計画と個別記録の連動性が困難である。	カンファレンス会議に入居者も参加等、継続・変更の両面を加味した、一元的なものではない変化のある介護計画の作成と、サービス内容の順位付け記入等、日々の記録の充実に向けて検討されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化が生じた場合、その都度情報を収集し全体会議で検討、見直しを行い、家族、本人の要望も含め考慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の介助、外泊・外出時の食事の有無など本人、家族の状況や要望を聴き臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに老人クラブの代表や市の福祉課の職員を配置し意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の要望を受け入れかかりつけ医の受診を行っている。また、運営者が医療法人の医師の為急変時などかかりつけ医受診時は一度法人の医師の診察を受け情報提供書を書いてもらいかかりつけ医を受診している。	週1回の法人の院長による訪問受診がある。他科受診は院長の紹介状をもらい受診している。リハビリにはシフトを組み支援している。また、口腔ケアの指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関併設のため、看護職との関わりも多く、連携もとれており、気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者が入院された場合定期的に見舞いに出掛け回復状況など医師、看護師と情報交換を行っている。また、ご家族からも相談に乗り退院についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族から意向を伺ったり、事業所の考え、方針を説明し理解してもらい、重度化や終末期に対するケアの同意書を作成し、ご家族・医師・職員でよく話し合い重度化や終末期に向けた方針の共有に取組んでいる。	今までに、3名の看取りを支援した経験がある。かかりつけ医と主治医との連携は密にできている。重度化に伴う看取りに関する指針を明確にし、家族の同意を得ている。利用者の状態変化に伴う説明と同意の状況が明確とは言えない。	医師が判断して看取りに入った段階で家族への説明、意向とそれぞれの役割分担での支援と確認の同意を得られることが望まれる。また、看取りに関する記録と、職員間で反省・良い点を含め、事例として活用でき、体制の充実に活かせる取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会の参加や伝達研修を行っている。急変時対応マニュアルをいつでも閲覧出来る様にしている。また、同一法人の医院の看護職へその都度相談を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を消防署立会いで行い、地震・風水害についても消防署署員に相談をしている。	管理者が不在の状況を想定し避難訓練を体験してみた。夜間体制は2ユニットに職員が1名で火災や避難は非常に大変である。経験の浅い職員の訓練を中心に実施している。また、備蓄は準備しており、持ち出しリストはデータ保管している。	認知症である18名の利用者を1名での支援は普通でも大変であり、いざと言う時の夜勤体制を考えて、2名体制を考慮される事が望まれる。また、職員の不安材料をなくするための危険が所の確認と話し合いと具体化を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉掛けやプライバシーを配慮した対応している。特に入浴に関しては原則同姓介助を行ったり、失禁に対しても速やかに居室のトイレに誘導し対応している。	プライバシーへの取り組みとして、写真使用にも同意を得ている。大切な話は事務所で言い、利用者の人格を尊重し、声かけやさりげない誘導に気がけている。個人情報に関する書類は事務所で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮せるように支援している。また、意思決定の困難な方へは、簡単な質問で自己決定を促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、本人のペースに合わせ、出来る限り希望にそって支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は出来る限り、本人の希望によって行い、その人の生活習慣にそった支援をしている。また、散髪は美容師の資格がある職員が好みの髪型にカットを行ったり、行きつけの理美容院へ連れて行き対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を活かし、食前の準備、食後の後片付けなど入所者と職員で一緒に行っている。	利用者さんの状態に合わせて皮むきや、湯呑み洗い、下膳の手伝いをして頂いている。利用者に食器（自助具・持ち手付き等）やマット（滑り止め）を使用し、ミキサー、刻み、とろみ食、お粥等その人に合わせた食事を栄養士と相談しながら提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや特別食など栄養士に相談し献立を立てている。食事摂取量や水分摂取量については記録を取っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりで出来る方は声掛け・見守りを行い出来ない方に対しては毎食後口腔ケアを各居室で行なっている。また、入れ歯の状態を観察し適宜歯科受診を行い調整している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し個々の状態を把握し時間を見計らってトイレ誘導をすることでトイレで排泄出来る様援助している。	排泄チェックシートを活用し、パットから布パンツやパットの使用が減ったケースがある。時間的な誘導と、起立訓練の賜物であり、トイレでの排泄を目指し、自立に向けた取り組みに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の管理を行っている。水分摂取量をチェックし毎日一定量の水分を摂取して頂いている。また、野菜嫌いの方へ野菜ジュースを飲ませたり、おやつとして牛乳などの乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全のため、基本的には日中帯に入浴していただいているが、その中で午前・午後や順番など、希望にそって入浴できるよう支援している。また、原則的に同性の職員が介助している。	入浴は2日に1回、失禁時にはシャワー浴で対応支援している。お風呂が2つあるので様子を見ながら対応している。利用者の中には待ちきれない人もいほど、入浴を楽しみにされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えている。眠剤使用の方に対しては睡眠状況を確認し常に担当医と相談し見直しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はすぐに閲覧出来る様個々のファイルに綴じ閲覧出来る様している。状態等も常に観察し担当医と相談し見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経歴などを考慮しお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。天気の良い日など気分転換にドライブなど行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リハビリや買物、散歩、ドライブなど、希望に応じて支援している。家族の方にも声掛けし外出や外泊なども支援している。	お弁当持参で外出したり、デイサービスの福祉車両を借りてドライブ、文化祭やお祭にも出かけている。職員のフットワークが軽く、思い立ったが吉日の如く、頻繁に外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせ、金銭管理してもらい、買物の際はできる限り本人の意思を尊重し、支援するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、職員が声掛けを行ない希望をとり、手紙のやり取りが出来る様支援し、電話も希望に応じ、その都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の制作した物品を飾り、共用スペースには、季節に応じた物品(おひなさま、こいのぼり、クリスマスツリーなど)を飾っている。	リビングは広くソファ、食卓を配置し、テレビが2台あり、チャンネルは見たい番組を自由に変えられ楽しまれている。利用者さんの好きな本は島原図書館の廃刊を活用し、楽しみに繋げている。広いスペースを活用し、リハビリ体操も行われている。全体的に明るく、騒音は無く、居心地良く過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置でそれぞれが思い思いに過ごせるよう居場所を確保し、廊下にもベンチを置いて、一人でも仲間同士でも休めるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や物品の持ち込みの制限は特に無く、テレビ、冷蔵庫、ベッドなど希望があれば出来る限り持ち込めるよう支援している。	居室には、位牌も持ち込まれ写真や幼稚園児の慰問のプレゼントのお雛様も飾られている。テレビ等を持ち込み、居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、張り紙や声掛け等で混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、自立して暮せるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402184		
法人名	医療法人 杏林堂		
事業所名	グループホーム明星 雲仙ユニット		
所在地	〒859 - 2122 長崎県南島原市布津町乙674-1		
自己評価作成日	H21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年 3月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度	
		3. たまにある			○ 3. たまに	
		4. ほとんどない			4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない			4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が	
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が				
		2. 利用者の2/3くらいが				
		3. 利用者の1/3くらいが				
		4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心も元気・身体も元気・明るく楽しく暮したい」を理念として掲げ、毎月の全体会議での意識づけや日々の業務の中でも常に理念を掘り下げて、意識した判断、行動をとれるよう努めている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント(文化祭、盆踊り、お祭など)へ積極的な参加と散歩を通じて近所の方へ挨拶をしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に外部へ出掛け地域の方との交流を深めたり、口腔ケア研修等を行ったり、ボランティアの受け入れを行ったりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回市の職員代表、地域の代表、入所者家族代表の方が参加され、日々の活動報告、入所者の状態等を報告している。また、参加者より地域の情報や市の取り組みなど意見を頂いている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーで市の職員の代表の方と情報交換を行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議でケアを振り返り、身体拘束が行われていないか再確認している。また、研修等への積極的な参加で理解を深めている。また、基本的に夜間以外は鍵をかけず、利用者の行動の把握と見守りにより、事故防止に取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、全体会議等で伝達研修を行い資料等閲覧出来る様にしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人が必要な方がいたが管理者一人に対応したため現在事例が無く数名の職員は独学で制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り、入所前に事業所の見学をして頂き契約内容、運営方針など十分な説明を行い、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いをくみ取り、利用者本意に考え実践している。不満等は全体会議で改善に向けて検討している。また、玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を通じ、職員の意見や提案を考慮し取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	顔見知りの関係などを考慮し法人内の異動は極力行っておらず、離職の際にも引継ぎ期間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加費など全て事業所が負担している。また、研修会に参加できない方に対し全体会議時に伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入し研修会を通じ他の事業所の方と交流を図っている。また、職員の友人・知人を通じ交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、本人の要望を多く聴く機会を持つようにして受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労した話等を聴き、課題を把握し、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、サービスの緊急性、必要性を見極め関係機関や相談者と信頼関係を築きながら考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴を把握し、経験や体験など利用者から学びながら共に生活することで、支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時の声掛けや行事への参加の呼びかけを行い、支えあう関係を気づくよう勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望するなじみの場所(墓参り、身近な店)への外出など、できる限り支援している。また、年賀状を出したり電話を掛けたりし、つながりの関係が継続出来る様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に集まり、会話し、支え合い暮せるように、利用者同士の人間関係をよく把握し、必要であれば職員が間に入りより良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	知人やケアマネ等に近況状況を聞いたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族によく話を聴き、意向に沿った生活をされているか、常に気に掛けながら取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを考え、小さなサインも発見し、総合的に援助出来るよう配慮する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に日常のことで思いや意見を聴き、考慮している。また、全体会議を通じ全職員の意見を聞き反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化が生じた場合、その都度情報を収集し全体会議で検討、見直しを行い、家族、本人の要望も含め考慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の介助、外泊・外出時の食事の有無など本人、家族の状況や要望を聴き臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに老人クラブの代表や市の福祉課の職員を配置し意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の要望を受け入れかかりつけ医の受診を行っている。また、運営者が医療法人の医師の為急変時などかかりつけ医受診時は一度法人の医師の診察を受け情報提供書を書いてもらいかかりつけ医を受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関併設のため、看護職との関わりも多く、連携もとれており、気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者様が入院された場合定期的に見舞いに出掛け回復状況など医師、看護師と情報交換を行っている。また、ご家族からも相談に乗り退院についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族から意向を伺ったり、事業所の考え、方針を説明し理解してもらい、重度化や終末期に対するケアの同意書を作成し、ご家族・医師・職員でよく話し合い重度化や終末期に向けた方針の共有に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会の参加や伝達研修を行っている。急変時対応マニュアルをいつでも閲覧出来る様にしている。また、同一法人の医院の看護職へその都度相談を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を消防署立会いで行い、地震・風水害についても消防署署員に相談をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉掛けやプライバシーを配慮した対応している。特に入浴に関しては原則同姓介助を行ったり、失禁に対しても速やかに居室のトイレに誘導し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮せるように支援している。また、意思決定の困難な方へは、簡単な質問で自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、本人のペースに合わせ、出来る限り希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は出来る限り、本人の希望によって行い、その人の生活習慣にそった支援をしている。また、散髪は美容師の資格がある職員が好みの髪型にカットを行ったり、行きつけの理美容院へ連れて行き対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を活かし、食前の準備、食後の後片付けなど入所者と職員で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや特別食など栄養士に相談し献立を立てている。食事摂取量や水分摂取量については記録を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりで出来る方は声掛け・見守りを行い出来ない方に対しては毎食後口腔ケアを各居室で行なっている。また、入れ歯の状態を観察し適宜歯科受診を行い調整している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し個々の状態を把握し時間を見計らってトイレ誘導をすることでトイレで排泄出来る様援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の管理を行っている。水分摂取量をチェックし毎日一定量の水分を摂取して頂いている。また、野菜嫌いの方へ野菜ジュースを飲ませたり、おやつとして牛乳などの乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全のため、基本的には日中帯に入浴していただいているが、その中で午前・午後や順番など、希望にそって入浴できるよう支援している。また、原則的に同性の職員が介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えている。眠剤使用の方に対しては睡眠状況を確認し常に担当医と相談し見直しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はすぐに関覧出来る様個々のファイルに綴じ閲覧出来る様している。状態等も常に観察し担当医と相談し見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経歴などを考慮しお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。天気の良い日など気分転換にドライブなど行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リハビリや買物、散歩、ドライブなど、希望に応じて支援している。家族の方にも声掛けし外出や外泊なども支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせ、金銭管理してもらい、買物の際はできる限り本人の意思を尊重し、支援するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、職員が声掛けを行ない希望をとり、手紙のやり取りが出来る様支援し、電話も希望に応じ、その都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の制作した物品を飾り、共用スペースには、季節に応じた物品(おひなさま、こいのぼり、クリスマスツリーなど)を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置でそれぞれが思い思いに過ごせるよう居場所を確保し、廊下にもベンチを置いて、一人でも仲間同士でも休めるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や物品の持ち込みの制限は特に無く、テレビ、冷蔵庫、ベッドなど希望があれば出来る限り持ち込めるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、張り紙や声掛け等で混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、自立して暮せるよう支援している。		